

## 「地理院地図の段彩図で見る平野の地形」の作業内容と手順

○作業内容：国土交通省国土地理院の「地理院地図」の繰り返し段彩図で、扇状地と三角州の違いを調べる。

○手順：

- ①PCでブラウザ（Google Chrome 以外）から「地理学概論のページ」を開いて、「使用する資料」の10/15の作業の紫のボタン「段彩図」をクリックする。
- ②そうすると、地理院地図の黒部川河口付近の段彩図が開く（図1）。この段彩図は、標高5mごとに、だいたい、黄、青、緑、紫の5色で色分けしてあり、それら5色が繰り返されている。すなわち、だいたい色から次のだいたい色までで、標高差が25mあることを示している。

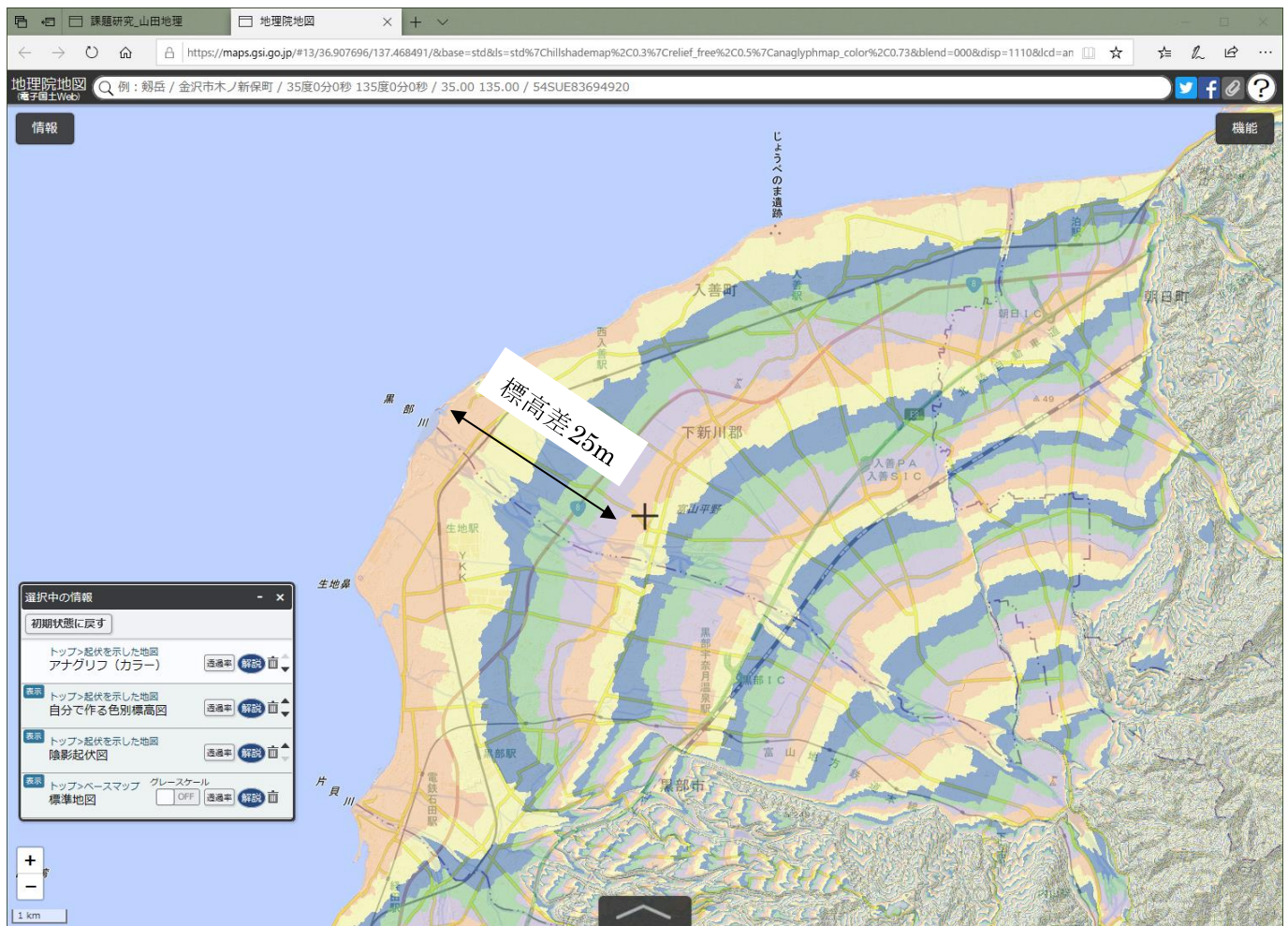


図1 地理院地図で表示された黒部川河口付近の段彩図

裏面に続く

# 裏面から続く

- ③この黒部川河口の扇状地で、以下のようにして、勾配を調べてみる。まず、マウスのスクロールホイールで、黒部川の河口を、少し拡大する。そして、画面の右上にある「機能」ボタンをクリックして表示される「ツール」をクリックして表示される「計測」をクリックすると、カーソルが十字になるので、黒部川の河口をクリックして、黒部川に沿ってクリックすると、赤い線が描かれる（図2）。そして、河口にあるだいたい色の帯の次のだいたい色の、紫との境界線でダブルクリックする。そうすると、河口から標高差 25 m までの水平距離が計測され、画面右上に表示される。図2では、水平距離は約 4 km なので、勾配（標高差/水平距離）は、 $25/4000=0.00625$  (0.625%)になる。扇状地の勾配は、おおむね 0.2%～10%なので、河口のだいたい色から次のだいたい色までの水平距離が、0.25 km ～12,5 km であり、おおむね扇形の帯が描かれていれば扇状地と言える。

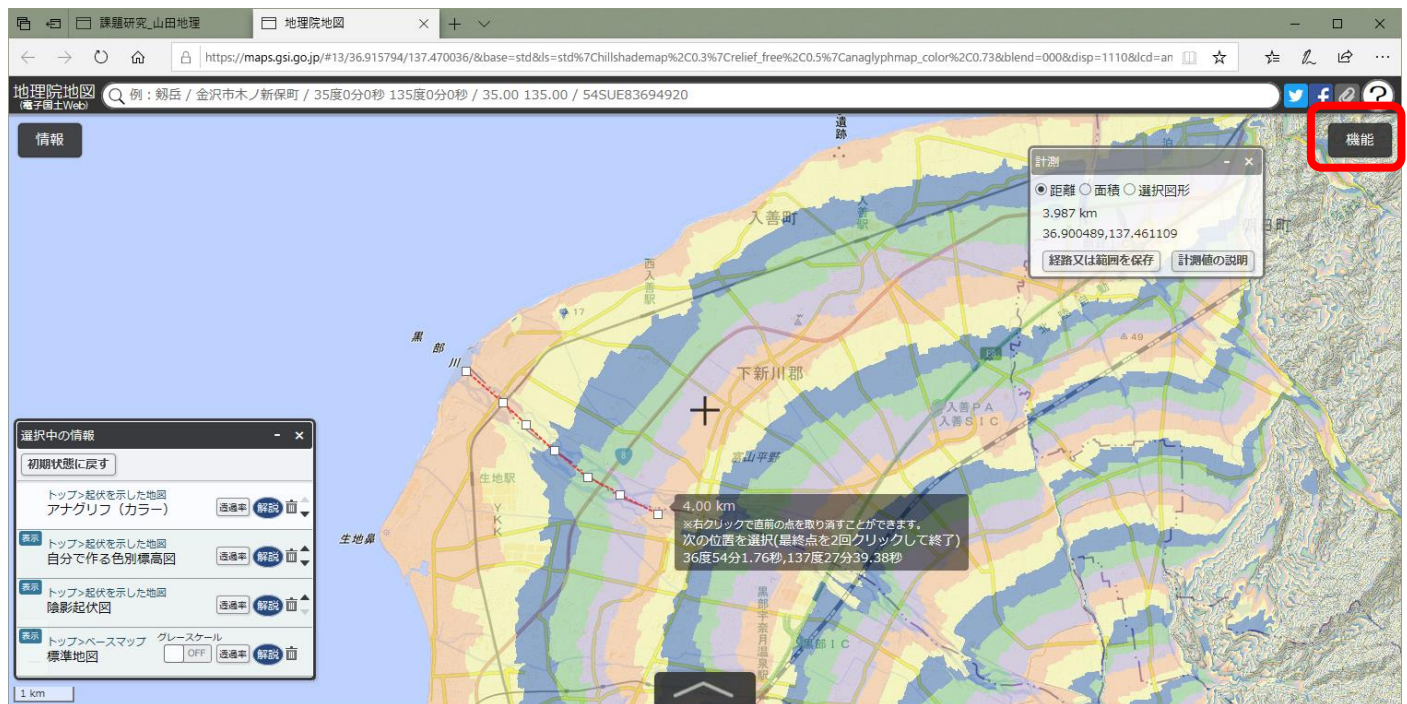


図2 地理院地図での水平距離の計測

- ④以上のようにして、本州の河口で扇状地を探して、河口に扇状地が見つかったら、提出用判読結果記入用紙の地図に赤丸を描く。また、提出用判読結果記入用紙に、河川名と水平距離を記入して、勾配を計算して記入する。黒部川から始めて、反時計回りに本州を一周する。比較対象として、三角州である、太田川（広島県）および木曾川（愛知県）でも計測して、表に記入する。
- ⑤以上の作業結果を基に、「扇状地と三角州は何が違うのか？」と聞かれたら何と答えるかを考えて、答えを提出用判読結果記入用紙の裏面に記述する。
- ⑥「どうして河口に扇状地があるのか？」と聞かれたら何と答えるか、地図から考えて、提出用判読結果記入用紙の裏面に記述する。